

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190800033		
法人名	有限会社 きずなの里		
事業所名	みやまの里		
所在地	岐阜県山県市富永754-5		
自己評価作成日	平成24年11月27日	評価結果市町村受理日	平成25年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kazokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2190800033-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kazokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2190800033-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成25年1月15日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然環境の中で、季節の移ろいを肌で感じながら、近隣の人々との交流を楽しみ、個々の利用者が思い思いの暮らしをして頂けるような支援をめざします。お一人お一人の個性や能力、お好みを大切に、ご自身の力を発揮して生きて行かれるお手伝いをさせていただきます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ゆったりとした、静かな山村風景の一角にあるグループホームである。管理者の豊富な医療知識と、職員の高齢者に対する思いやりのある優しさで、利用者を支えている。さらには、地域の人々とも親しく交流し、利用者には、持っている能力を十分に発揮してもらい、質の高い生活(QOL)を提供している。管理者・職員は、利用者が最期まで安心して、穏やかに過ごすことができるように、熱い心で、家族や地域の人々と協力しながら、利用者一人ひとりの、個性や能力を大切に暮らしたるしを支援している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作成し、一人ひとりの職員によく浸透させるべく持たせている。さらにその根本にある、誠心誠意真心をこめてを額にし、玄関正面に掲げることで、日々の勤務に入る時に再認識することが出来るよう工夫している。	玄関に理念「誠心誠意真心をこめて」を掲げ、勤務につく時確識し、共有している。近隣の人たちと親しく交流し、地域の関係を大切にしながら、利用者の個性を尊重した生活を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事へのお誘いを受けるだけでなく、施設でのイベントにも地域の方々をお誘いしている。また日常の中でも農作物のやりとりや作業のアドバイスを頂いたり、散歩での声かけや立ち話など、年を経るごとに広く深い交流へと発展している。	地域の行事やホームのイベントに互いに参加し、親密に交流している。特に夏まつりは、近郊のキャンプ場で盛大に行っている。訪問ボランティア・高校生の吹奏楽部や保育園児との交流につとめている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の交流の中で、認知症への理解を深めて頂くだけでなく、市の開催する催しなどへの参加をする中で、認知症への理解や介護保険、介護施設の色々、支援のありかたなど、話をさせて頂き啓蒙に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みの報告や現状を伝える事、またそれらに対する意見やアドバイス等を頂き、次の取り組みに活かすように努めている。賑やかに意見交換は出来ているが、直面する問題に対することが多く、長期的であったり目新しい事柄が出てくることは少ない。	隔月に、市の関係者・家族・協力医・看護師・地域代表等が参加している。業務報告やインフルエンザ、ノロウイルス等の予防方法や、重度化対応で意見を検討し、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	非常に友好的で協力的な市担当職員のおかげで、様々な疑問の解決やアドバイスを頂いたり、相談事を聴いて頂いたり感謝しながらお付き合いを頂いている。	困難事例や、制度の疑問点は、その都度相談している。介護相談員の時間配分や進め方の要望等を相談し、助言や指導を受け、良好な協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間を除いて施錠しないことを基本に、身体拘束はしないことで徹底している。一人夜勤のため、必要な場面にも遭遇するかと危惧していたが、現在のところ その心配は杞憂に終わっている。	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。摘便行為の利用者には、心理面・身体面のケアを工夫し、改善している。特に、「言葉による拘束」に気をつけて、日常的に振り返りをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修への参加はもとより、権利擁護推進員も2名となり、その基本的理解を他者にも広げる事を試みている。自己の姿を絶えず振り返ることを全員で心がけている。		

岐阜県 グループホームみやまの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	施設外の研修への参加、施設内での勉強会等にて学ぶ機会を持ち、理解に努めているが、まだ我々の中のみであり、利用者や家族への周知には至れてはいない。機会を作ることもなかなか困難。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時だけでなく、事前面接や、入所後の機会を捉えても説明やその補足をしている。十分にご理解頂けているものと思っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の支援の中で、利用者の思いを知るようにつとめ、さらに面会や行事等の出会う機会にはご家族の思いを話して頂けるようにつとめている。また、事あるごとに遠慮せずに電話などでもお話しさせて頂くよう努めている。	家族会や面会・電話等で家族や利用者の思いを引き出している。利用者や家族からの思いに誤解を生じさせないことや、衛生面や身体面の対応など、互いに意思疎通ができるように話し合い、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	原則として週1回ミーティングを行い、スタッフの意見をくみ上げるよう努めている。直面する全ての問題はかりでなく、入所判定や、入所者への対応、行事の企画運営等、殆どの事はそのミーティングで決められる。	毎週のミーティングで、職員の意見や提案を聞きながら、行事の運営企画・ホームの自己評価を全員で検討し、サービスの改善に反映させている。記録の大切さを認識し、改善に取り組んでいる。	記録は証拠として重要であり、職員間で、効果的な記録方法の工夫に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々のスキルアップや、意欲、勤勉さなど それぞれを評価し、モチベーションの高揚につとめている。また、処遇改善加算の利用など、待遇改善にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や講習への参加が容易なように、勤務シフトの調整や参加費の補助等考慮している。また、参加した者のみにとどまらずその知識が全スタッフに周知できるよう ミーティングの時間等を利用して伝達講習をすることも進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会には参加していないが、同会の研修や交流会には参加するよう努めている。また、同業とだけでなく、他業種の施設訪問や、研修講習にも参加するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接時にはなるべく複数の職員で訪問し、馴染みの顔を作れるようつとめている。また、入所の折には言葉や態度に表現されていないものはないか に心を砕くようつとめ、孤独感や不安感の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用の相談時、事前調査時、入所時、入所後の面会時等、家族との面談の機会にはお話を伺うよう努めている。全ての要望に添えるとは限らないが、正直な気持ちで対応するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初に、家族からの相談から始まることが多いことから、第一の希望である入所をお引き受けするのであるが、その後になって、様々な不都合や調整の必要な事等がみえてくることもある。他の支援方法や医療等を考慮に入れ、最もふさわしい支援の在り方を見つけるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	多くの支援を必要とされる方は、自然と介護される一方になりがちであるが、残された能力の中で、共に出来る事や 協力し合えること、光る部分などを見つけてられるよう、常に配慮しながら生活をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態を正直に家族にお伝えすることにより、良い時も悪い時も一緒に悩んだり考えたりしていけるよう努めている。事業所の力不足の部分もしっかり打ち明け、協力を仰ぐことも多い。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や通信等については遮ることなくその仲立ちにつとめ、依頼されれば協力をしている。また、間遠となった家族の面会や外出外泊等も協力をお願いしている。利用者皆での外出、買い物、外食等にも、主治医と家族の許しがあれば積極的に出かけている。	友人やケアハウスの知人の訪問がある方もあり、会話や再会を楽しめるよう配慮している。また、馴染みの寿司屋、外食・喫茶店にも継続して出かけている。家族と協力して、外出や外泊希望に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間には知らず知らずのうちに、それぞれの位置づけが決まってくる様子。大きな支障のないものや、傷つく利用者がいないような場合には、概ねそれを尊重し、仲間意識を大切にしている。家族的雰囲気が出てきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で契約が終了した場合は、比較的それで関係が終了するケースが多い。他施設へ行かれて、契約終了となった方には、イベントのお知らせをしたり、施設を訪問したりされたりといったお付き合いが続くこともある。そんな方の相談には出来るだけ対応している。また、入院や自宅へ帰られた方でも電話などでの問い合わせや相談には極力応じるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員で全ての利用者の思いをくみ取る努力をしているが、さらに3人のスタッフで3人の利用者を担当するシステムを作り、もっと深くその意向を把握できるようにしている。その上で、スタッフノートやミーティングを利用して、情報を共有できるようにしている。	日常生活や介助の機会に、思いや意向を汲み取っている。担当者を決め、より深く関わり、思いに共感し、気づいたことは、職員間で共有しながら、その人らしく安心して過ごせるように支えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の本人や家族からの聞き取りだけでなく、日常生活の中で知りえた情報は、アセスメントの利用やミーティング等の機会を得て共有するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングやケアカンファレンスの他、日々の介護記録や引き継ぎ等を利用し、点での観察だけでなく、帯としてその方を見つめることに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の報告やミーティング、カンファレンス等により、職員からの情報を得ることと介護の現場を日常的に観察し、本人から直接お話を伺うこと等を総合的に判断し、計画作成担当者が作成する。モニタリングもしかり。	介護記録を基に、カンファレンスを行い、職員からの意見や情報を確認している。利用者・家族にも要望を聞き、介護計画を作成している。計画が、利用者本位になっているかどうか、常にモニタリングをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録をきちんと記録し、次々とそれを引き継いでいくことで情報を共有。さらに介護のチェックリストを作成し、毎日の支援を形あるものとして残す。適宜それを追加削除することで、実態に即したものとしていく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変 応用力をつける を職員間の長期の目標として掲げ、個々人のその場に即した対応や支援が出来るように努力している。しかしこれは、サービスの多機能化に対するものであり、事業所の多機能化にどう結び付けるのかは解らない。		

岐阜県 グループホームみやまの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署と近隣の協力のもとで行われる年2回の初期消火・避難訓練、2か月に1回の訪問理美容、保育所との協調、イベント時のボランティアの協力、警察による施設近辺の巡回、入所者や職員の把握等により、入所者はもちろん、職員も安心して毎日が送れるようにできている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は 本人・家族の希望通りに決定。そのかかりつけ医とは絶えず連絡をとり、本人が安心して医療を受け、生活出来るよう支援している。基本的に提携医による1回／週の訪問診療と訪問看護、必要時の受診、また、希望診療科への受診がなされている。	かかりつけ医は、本人・家族が選択している。協力医による隔週の訪問診察と、訪問看護師も隔週である。家族の希望に応じ、協力医への受診や他医院へは、職員が同行支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	基本的に1回／週の訪問看護を受けている。お互いに情報を交換する中で、現在、利用者が必要としている医療や介護を明確な形とし、実践のあしがかりとしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力病院に対しては、日頃から交流を持つことで、連携をやすくしている。看護サマリーや、介護情報の提供などで、情報を共有し、治療に役立つことを願っている。入退院時のみならず、なるべく病院に足を運び、本人や家族に安心して療養して頂けるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	1例のみ終末を経験したが、ごく短期間で終了したため、各職員の実感としての経験には程遠いものであった。想定での話し合いや準備はしているものの、たいていの利用者は医療を必要とされるため、支援に取り組むまでには至っていない。また、利用者家族も当施設の限界をじゅうぶんに理解して頂いているようである。	重度化や終末期の指針があり、入居時に説明し同意を得ている。段階的に、関係者で話し合いを重ね、ホームで出来る限界までを支援している。重篤な医療行為のない、終末期に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の初期消火・避難訓練時には、毎回課題を変えて講習をうけたり、実地訓練に励んでいる。これは全職員に限らず、利用者にも参加して頂き、少人数の施設では欠かせない、全員で対処するという意識をしっかりとって頂けるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に対する訓練は行っている。最も危機感を持っていることは水害であるが、1度実際に避難を経験しており、職員としては、実感を伴う災害として記憶されている。近隣の協力は得られているが、地域全体となると果たしてどうか。一応の備蓄品は用意している。	年に2回、避難訓練・初期消火・通報・夜間を想定した訓練を実施している。独自のシュミレーションに基く、自主訓練を定期的に行っている。近隣との協力体制があり、備蓄品も備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々人の細かな情報について人前では話題にしない。排泄等の問いかけや報告を聞えるところではない。等をはじめとして、個人の尊厳を守る上での大切な事に気を配っている。しかし、生活を共にすることで、親しくなりすぎて遠慮が無くなったりする嫌いがあるため、言葉には十分注意することが必要だと思われる。	利用者を個人として尊重し、安心と尊厳のある生活を実現するように努めている。利用者の前では、あからさまな会話をしないことや、トイレ誘導では、羞恥心に配慮している。無意識に、言葉の乱れが無いように、努力を必要としている。	日常的に人格・人権を尊重した言葉づかいのあり方を、周知・徹底できるように期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細な事でも、自分で決めた、選んだ、ということを目覚めて頂けるように、いくつかの選択肢を設ける事を基本とし、ご自身の思いをご自身の言葉で表現して頂けるような支援を目指している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭での個々のペースをそのまま尊重したいのであるが、職員の数やその日の流れなどに重きをおくことが多いのが残念である。が、清潔に関しては、あらゆることを差し置いて優先するようにしている。(排泄の失敗などによる汚染時などにはその都度シャワーや入浴をして頂くなど)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を定期的にお願ひすることで、希望者にはその都度利用して頂く。洗面時や入浴時のひげそり、整髪、肌の手入れ当の支援。希望時には対応できるように化粧品の準備もしている。また、バランスの良い服装をして頂けるように、衣類選択のアドバイスもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	2日/週は、希望を聴いたりして職員がメニューを考え、食材を調達。その他は業者からの食材納入によるメニューとなる。職員も同じものを一緒にいただく。現在調理にくわわっていただけたり、配膳を手伝って頂けるような方がおられず、専ら職員で全てを賄っている。たまには、外食にでかけたり、出来あいのものや、インスタントの物を購入したりもしている。	週に2回、利用者と献立について話し合っている。できる限り、好みを生かした食事づくりをしている。職員も同じテーブルで食事をし、会話も弾み笑い声がある。外食や野外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々人の記録をきちんととることで、摂取と排泄のバランスや、主治医への必要時の報告に役立てたりしている。その人その人の生活パターンや好みなども理解できているので、調理法や盛り付け、食器などの工夫もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕だけでなく、毎食後の口腔ケアの実施、緑茶でのうがい、義歯の手入れの実施、等 一人ひとりの能力に応じた支援をしている。		

岐阜県 グループホームみやまの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	希望されてのトイレの付き添いだけでなく、個々のペースに合わせた誘導を行うことで、失敗を減らし、安心出来る生活を作り出す。オムツ使用であった方も、昼間はオムツをやめ、トイレで気持ちよく排泄できる喜びを提供する。	個々の排泄パターンを把握して、トイレへ誘導している。排泄の失敗を少なくし、安心と自信が持てるように支援している。夏は、リハビリパンツから布下着に切り替え、自立を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動、外気浴、散歩、水分摂取、おやつや食事の工夫等で、予防に取り組んではいる。早朝の冷水・冷牛乳等は効果が見られる。効果の無い時はどうしても薬剤に頼らざるを得ない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望のみを尊重しての入浴は難しい。3回/週の入浴がやっとで、その他の日は足浴だけで我慢して頂いている。時間も午後2時～4時で、改善したいが、思うにまかせない。せめて、毎回使う入浴剤の種類を変えることで、気分を変えて頂けたらと思っている。	利用者の希望に応じて、週に3回入浴している。また、入浴剤を変えて、気分転換を図っている。入浴日以外は、足浴で下肢の清潔を保持し、水虫の治癒に効果を上げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一律に就寝・起床時間を決めることはせず、本人の一日の流れを尊重し自由にして頂く。ただ、昼夜逆転の方がおられるため、極力他の利用者への影響が少ないよう努めてはいるが、時に安眠を破られることもある。昼間の刺激や変化、疲労感などで安眠を得られるように工夫はしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の理解はもちろんであるが、事故なく、確実な服薬が出来るよう工夫している。また、毎日のバイタルチェックをはじめとして、個々の状態観察とその報告を大切にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクや外出だけでなく、協調して取り組める軽作業や個々の能力に応じた手伝い、趣味の継続等に努めている。また、喫煙や、飲酒も禁止してはいるが、現在それを希望する利用者はいない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を考慮し、近くへの散歩や、寺詣り、買い物等を計画し実行している。頻回ではないが、遠方への買い物や、外食の機会も作り、普段とは違った楽しみ方の工夫もしている。家族の協力のもと、個々での外出や外泊もしている。	日常的にホーム周辺の散策や寺詣り、買い物等の外出をしている。家族の協力を得た、個別の外出・外泊支援、外食や喫茶店に出かけている。	



岐阜県 グループホームみやまの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に全員のお小遣いはお預かりしている。買い物や、手持ちの現金が無いと寂しいという方には、数千円までの所持は支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話の使用に応じており、かかってきた電話は全ておつなぎしている。手紙やはがきも自由にやり取りが出来るよう、必要な物の提供や投函などの支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	うるさくなりすぎない程度の季節の飾り付けや配置に工夫をし、まぶしすぎない程度の外光の取り入れ、音量の調節などに気を使っている。時節にあった利用者の作品作りや、その展示等にも力を入れている。共用スペースではあっても、個々の居場所となるよう配慮している。	ゆったりとしたソファがあり、快い共用空間となっている。習字を飾った和の空間や、木製の椅子と干支の壁飾りで生活感を工夫している。特徴あるツールペイントで、居室・トイレ・洗面所等を分かりやすく表示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の居場所と思えるような場所がそれぞれの利用者ごと決まってきたり、なるべくそれを崩すことの無いよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には新規購入をなるべく避け、馴染みのあるものを持参して頂けるようお願いしており、その空間は個々人でお好みのように利用して頂けるようにしている。	籐の整理タンス・鏡台・家族と一緒にの写真・縫いぐるみ人形・絵手紙など、馴染みの物を、本人の好みに配置し、居心地よい居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は全てフラットで、時に廊下には障害物となる様な物は一切置かないことを基本としている。死角を作らない設計で、内部全体を見渡すことが出来るため、利用者の安全確保、安全確認には良い。		